

平成15年11月20日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

宛名ラベル上の会費納入状況表示の変更について

(終身会員の「S」スタンプ表示の廃止)

宛名ラベル上に会費納入状況を表示しておりましたが、同窓会会員の増加に伴い、作業の簡素化を図ることとなりました。

終身会員であることを示す「S」のスタンプを廃止し、今年度の会費が未納の方のみ「未」のスタンプを押すことといたします。そのため、終身会員の方および今年度の会費をお支払いいただいている方の宛名ラベルには、何のスタンプも押されないこととなります。

会員の皆様には、ご理解とご協力をお願いいたします。

SELDAA ホームページ制作者募集

英語学科同窓会の活性化を考える「活性化委員会」(委員長：片野(金山)順子氏、昭和52年卒)より、SELDAAのホームページの充実が要請されました。常任委員会ではこれを受け、ホームページを制作し、定期的な更新をしていただける方(会社)を募集します。基本的には、英語学科の卒業生、または、卒業生が関与する会社とします。なお、同窓会より些少なから報酬を支払います。

応募、問い合わせは、同封の葉書、FAX (03-3238-3910)、または、e-mail: seldaa@mve.biglobe.ne.jp にて、2003年12月15日(月)までにお願います。

SELDAA 常任委員大募集中

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に同窓会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募、お問い合わせは、お気軽にどうぞ。



「励まされての毎日」

英語学科教授 松尾 式之 (昭和39年卒)

夏休みもあって気楽な商売だと言われるが、大学教師の実態はそうでもない。ニッセル先生が学期の後半になると、あと何日と数えていたのを思い出す。私もあと3年で65歳、めでたく定年だがけっこう大変な日々だった。

まず論文執筆のプレッシャー。ジョージタウン大学院時代に、「書けない者は大学から消え失せる Publish or Perish」と聞かされて以来、それはオブセッションとなった。おかげで論文のみならずいろいろ書いてしまったが、アマゾンで自著のリストを見ると20冊以上にのぼり、あきれるばかり。去年の夏休みは『大統領の英語』の増補と『揺れる帝国アメリカ』の著作に費やした。今年は『現代アメリカ事典』の執筆と編集、上智大学出版向けの論文作成、雑誌の連載などで終わった。

その次が学会のプレッシャー。年を取ると役職もやらされるが、こちらは東大を出ていないので後ろ盾になる親分もおらず、冷めた目で様子をうかがわれているような気がする。そこで意地でもパフォーマンスをしたりして、私立大学一外国の大学院という道を歩んだ宿命を感じる。さらに前回丹野先生が言及したように、いつまでも西欧の学問をそのまま繰り返していたのでは存在意義が問われる。そこで東洋風に焼き直してみようとするのだが、これが至難の業だ。

最後のプレッシャーが授業。学生たちは毎回の授業に約4,000円を払う勘定になり、妙な授業を展開してはそこら辺のロードショーに負ける。歌舞伎町より授業のほうが面白くてためになることを見せつけるには、相当のエネルギーを要する。普通は5科目から6科目の授業を担当するから、年間125回以上の真剣勝負の舞台に立つわけで、しかも観客はえり抜きの高偏差値の保持者。諸兄も覚えておられようが、先生の手抜きは直ちに判明するという状況のなかでの客商売だ。

良い加減くたばってしまいそうだが、若い人たちの純粋な前向きの姿勢が毎日の励みになって、何とか持ちこたえている。

活性化委員会発足！

石川雅弥 SELDAA 会長（昭和40年卒）の提案により、本年9月に「活性化委員会」が発足しました。今回は、活性化委員会委員長となられた片野順子さん（昭和52年卒）に寄稿していただきました。

上智大学英語学科同窓会活性化委員会 委員長を引き受けて

ジャーナリスト 片野順子（昭和52年卒）



去る6月6日上智会館で「ニッセル先生を囲む会」が催されました。先生の秘書をしていたこともあり、ニッセル先生は私にとって父親のような方ですから、この会にはなんとしてもお伺いしたいと思い、出席させていただきました。そこで、SELDAA会長の石川様より、「来年、同窓会創立20周年を迎えるにあたり、今一度同窓会の意義と活動内容について見直すために、活性化委員会を設立し、そこでいろんなアイデアを出していただきたい。ついては委員長を引き受けていただけませんか」という打診をされました。私は、「現 SELDAA 常任委員会も活動をしているわけですから、常任委員会でその役はできないのですか」と石川様に聞きました。すると、「これまでずっと活動をしてきたが、同窓会について固定観念があるので、ここは一つ、いろんな人からの斬新なアイデアがほしい」とおっしゃいました。卒業生の総

数が約6,000名にも達するというところで、私のような者が活性化委員長なるお役を引き受けていいものかどうか迷いましたが、これもニッセル先生とのご縁から生まれたことですから、できるだけことはさせていただこうということで委員長をお引き受けする決心をした次第です。

同窓会の基本事業の一つである SELDAA セミナーでは、過去2回講演をさせていただきました。役員の方が「人集めが大変なんですよ」とおっしゃっていた言葉が印象的でした。いろんなプログラムを考える上で、一人でも多くの方に参加していただき、それが同窓会の発展に繋がり、ひいては英語学科、そして大学へ貢献することになれば幸いです。そういう観点から、これからの活動内容についてアイデアを出していきたいと思っています。最後に現時点での私のアイデアを述べさせていただきます。それぞれに問題もあると思いますが、今後皆様のいろんなご意見をお聞きしたいので、是非ご協力ください。

1. インフラ整備

- a) 同窓会ホームページの充実
- b) 連絡網の確立
- c) 会員メールアドレスの作成
- d) 掲示板の作成 「世界では今」（仮タイトル）

2. セミナーの充実

- a) 学生参加可能なセミナー開催（開催日時の検討）
- b) 講師陣の多様性（卒業生、著名人、各国大使、アーティストなど）

活性化委員は、海外からも募集したいと思います。国際的な情報が得られるのは、SELDAAの一つの特徴です。この特徴を生かして、SELDAAがよりグローバルな情報および活動の中心地となるよう、いろんなアイデアを考えていきたいと思っています。

夏・沖縄の物語

新屋敷 二幸 (昭和36年卒)



今年の沖縄の夏は憂うつな事件で始まりました。13～14才の少年少女が仲間の一人にリンチを加え殺してしまい、更にその死体を草むらに埋めてかくすという陰惨な事件でした。事件が発生したのは「北谷」(ちゃたん)、沖縄本島中部、嘉手納、普天間に連なる基地沖縄の中心部です。

北谷と言えば、戦前は豊かな水田がひろがる沖縄の米どころでした。沖縄戦のとき、米軍は目の前の北谷海岸から上陸し、住民は狭い山間部に押し込められ、戦後50年の生活を強いられました。

基地の悪い影響を受けないようにと、北谷の人たちは子弟の教育には相当気を使いました。金を出し合って奨学金制度も作りました。健やかに育ってもらいたいと言う地域の願いも空しかったのでしょうか。かつての沖縄の政治スローガンのように「諸悪の根源は基地に有り」と短絡させるわけにはいきませんが、北谷の岡に立てば眼下に広大な嘉手納基地が広がります。気になる風景です。

8月31日、嘉手納基地の近くの沖縄市で、砲弾の爆発事故が有り、日本の自衛官が死亡しました。地元のマスコミによると、この自衛官は退職後の生活プランとして米軍払い下げの武器を集めていたのだとか。更に沖縄はマニアにとって中古の米軍の武器の宝庫であるとか。沖縄はアフガン、イラクの延長線上に有ることを実感させられました。

最後にグッドニュースを一つ。夏休みの8月、待望のモノレールが開通しました。空港から首里城までの12キロ。初めての鉄軌道体験に大人も子供も大喜びでした。アメリカ統治の27年間、アメリカ人は沖縄には鉄道はいらないと考えました。戦前は沖縄にも鉄道がありました。本土から遅れること半世紀、モノレールによってやっと本土並みとなりました。

沖縄の暑い夏は、10月の半ば、「寒露」の頃に終わります。寒露の頃、北からの季節風が吹き始め、風に乗って南下する「サンバ」の渡りによって、人々は夏が終わったことを知ってホッとします。

シカゴの夏

Rohan (佐藤) 賀代子 (昭和42年卒)



家族5人でシカゴの北の郊外に移り住んで以来、はや20年近くになる。ここは冬が厳しく長く、地形は平坦で変化が無い。しかし、夏のシカゴは素晴らしい。

青いミシガン湖畔に現代建築がそびえて、シカゴの夏は美しい。今のデイリー市長はお花が大好きでオヘア空港に着くと花に歓迎され、市内の大通りミシガンアヴェニューにはあふれんばかりに花が咲いている。有名なシカゴシンフォニー交響楽団、リリックオペラハウス、19世紀初めに建てられたいくつもの古い美しい劇場、全米第二の美術館もある。郊外の植物公園の広い庭園に気軽に散歩にも行ける。

シカゴの夏でもっとも素晴らしいイベントは、ラビニア野外音楽祭だ。北の郊外のハイランドパークで6月半ばから9月始めまで毎日、森の中の野外音楽堂で開かれる。指定席以上に人気があるのは芝生席で、人々はワイン、お弁当、折りたたみテーブルにお花やキャンドルまでもって行き、星空の下で音楽を聴くのだ。シカゴシンフォニーによるクラシックを中心に ジャズ、ラテン、ポピュラーなどあらゆる音楽が聴ける。ゲストパーフォーマーも素晴らしく、先々週はみどりのバイオリンを、先週はヨーヨー・マのチェロを聴きにいった。

郊外では自然も豊かだ。先月、上智のクラスメートの直子さんが日本から来て、2、3日我が家に泊まったのだが、裏庭にくる蜚、野ウサギ、リスや鹿に大感激。私にとって野ウサギや鹿はお花を食べるので、大敵なのだが。一緒に散歩した近くの森の中では、二人で赤毛のアンになったようねといいながら、見つけた野生のブラックベリーを食べた。ここの夏の気候は一般的にほどよい暑さで湿気もあまり多くない。白いレースフラワーや薄紫のデイジーのような花（映画“マディソン郡の橋”でクリントイーストウッドがメリルストリープに冒頭であげた花）や名前も知れない、ピンクの房がつんつんした花などの野花を眺めながらの車の通勤は楽しい。

夏のシカゴよいとこ、一度はおいで！

「労働組合出身の外交官として

見たアフリカ (ここでいうアフリカとはサハラ以南アフリカ)」

穂山 一樹 (平成5年卒)



私は労働組合出身の外交官として(現在は連合国際局に勤務)、1998年6月から3年2ヶ月間、在ザンビア日本国大使館に勤務し、政務班及び経済協力班の一員として主にザンビア及び兼轄国マラウイの政務と経済協力を担当した。

ザンビアは、北はコンゴ民主主義共和国、西はアンゴラ、南はジンバブエ、東はマラウイなど8カ国に囲まれた内陸国であり、地域の安定勢力として、地域の平和のために大きな役割を果たしている。

在勤中は「アフリカは日本外交のフロンティア」との気持ちを持ちながら働いた。アフリカ諸国HIV・AIDSの深刻化、テロ、環境破壊など地球規模の問題を多く抱えている。日本政府は「アフリカの安定なくして世界の安定はない」との基本的な考えを持って対アフリカ支援に取り組んでいる。このようなグローバルな問題、内戦、地域紛争、それらを引き起こす原因となっている部族対立、優秀な人材の国外流出などが開発の障害となっている。近年、アフリカの開発においては、アフリカ諸国が主体的に自らの開発に取り組み(オーナーシップ)、それを国際社会が支援する(パートナーシップ)という流れが強まっている。日本が中心となって始めたTICAD(東京アフリカ会議)プロセスの成果のひとつかもしれない。

アフリカ大好き人間のひとりとして、日本におけるアフリカのイメージが悪いことを大変残念に思っており、アフリカのイメージを改善するために役立ちたいと考えている。

日本ではあまり知られていないが、アフリカは多様な自然環境を有する観光資源の宝庫である。世界三大瀑布のひとつであるビクトリアの滝(ザンビアとジンバブエの国境に位置)、アラブ文化が浸透し美しい砂浜を持つタンザニアのザンジバル島、大草原の動物王国であるタンザニアのセレンゲティやケニアのマサイマラ、オカバンゴ・デルタを含めたボツワナ北部のカラハリ、砂丘が大変美しいナミビアのナミブ砂漠、「ザンビアの宝物」といわれるルアンガア・バレーなどいずれをとっても観光資源として世界第一級品である。これらは私が旅行した観光地の一部に過ぎず、他に素晴らしいところがたくさんある。また、私にとってはこれが一番重要なことであるが、ザンビアは釣り天国である。ザンベジ川のタイガー・フィッシュ、タンガニーカ湖のナイル・パーチ(写真：筆者がトロリングで釣り上げた)などをカバ、ワニ、象、ライオンなどを横目に釣り上げる快感は例えようがない。多くの日本人にアフリカを好きになってもらいたい。

ニッセル先生を囲む会

ニッセル先生を囲む会

去る6月6日(金)に、「ニッセル先生を囲む会」を開催いたしました。情宣活動の不幸で、38名という少ない参加者となってしまいましたが、参加された方は皆さん、学生時代を思い出し、楽しいひとときを過ごされていました。



参加者のコメント

ニッセル先生には、直接教わったことはなかったのですが、単位を落としたとき助け舟をいただいたり、就職のお世話をしてくださろうといったこともあり、在学中身体が弱くて大変な思いをしていた私はとても助けられました。いま、癌という病気を授かっている身で当日お目にかかれたことは大きな幸運でした。先生にはずっとずっと再会したかったからです。本当にうれしかったです。

また当日は既知の方はいらっしやらなかったのですが大いに皆様と打ち解けることができ、楽しいひとときでした。

川原真理 (昭和61年卒)



SELDA セミナー

SELDAA セミナーは、毎月一回、水曜日 10:30～12:00、ソフィアンズ・クラブで開催されております。今回は、2003年度前半に行われたセミナーについて、出席された方にご報告いただきました。

これまでに開催されたセミナー



● 2003年4月23日(水)

Fr. John Nissel, S.J.

(上智大学名誉教授、元英語学科長)

『Question Box: Living in Japan since 1950 (come with questions!)』

久しぶりに講師としてセミナーに登場されたニッセル先生は、とても御元気そうでした。「ガムを噛むように本一特にマザー・テレサの本一を読みなさい、そしてそれについて良く考えなさい。」と先生は言われ、いくつかの短いけれど味わい深い話を読みました。

その後、先生が1950年に上智大学にいらした時の話、東京湾で友人と舟遊び中に沖に流されて横須賀の米軍基地に連れて行かれた話等、初めて聞いたエピソードに53年の歳月を感じさせられました。

—— 川端啓子 (昭和43年卒)

● 2003年5月28日(水)

高 二三 (Ko I Sam) 氏 (新幹社社長)

日本生まれ、日本育ちの在日韓国人二世が語る——『在日とは』

今回の講話は、在日韓国人がたどってきた民族的な時代の流れを強く印象づけるものであった。私なりに、当日頂いたプリントの内容を検証すべく、手許にあるクロニクルの何冊かをひもといてみた。

名もない市井の一人として、大正末期に生まれた私のまわりにも、多くの在日の友人、知人、教え子たちが関わっていて、戦前、戦中、戦後の社会の中で、彼らとはごく普通の日常を共有してきた。

しかし、改めて今回の講話やクロニクルから、隣の国の一

世紀を振り返ってみれば、その認識は、通り一遍のものでしかなかったという反省を強いられるばかりである。

だが、若い世代の連帯は、スポーツ/芸術/文化を通して急速に、確実に深められつつある。政治が関わる社会の仕組みにも差別や矛盾を排除するイノベーションを期待したい。

—— 一老人

● 2003年6月25日(水)

小笠原 (古山) 祐子氏

(日本大学経済学部助教授、昭和58年英語学科卒)

『カップル・キャリア

——その可能性と課題』

上智大学を卒業後、マッキンゼーに勤務、シカゴ大を経て現在日大経済学部で御活躍の小笠原祐子さんに、「カップル・キャリア——その可能性と課題」というタイトルでお話いただきました。お連れしたイスラエル人ダリットさん(10月の講師)は、小笠原さんの本も読んでおり、5才と9才児の母親でありながら、日本文化研究者として家族で日本に滞在——と、テーマの一面である夫婦の家事子育て分担の実例ではありました。「自らのキャリアの形成に主体的に関わる…」の時代——共働きの有効性とその選択及び家庭内バランスが今日模索されている夫婦のあり様ではないかと示唆された講演でした。

—— 碓井 勢津子 (昭和46年日本女子大学英文学科卒)

● 2003年7月9日(水)

片野 (金山) 順子氏

(ジャーナリスト、昭和52年英語学科卒)

『世界の言葉でアイ・ラブ・ユー』

NHK出版『世界の言葉でアイ・ラブ・ユー』の著者、片野順子氏の講演会が行なわれました。

暗いニュースの多い中、「愛」を通じて人々を励ましたいとの動機から出版された著書の中には、在京の大使館めぐりをして集められた、世界70カ国のそれぞれの言葉で表現された、アイラブユーとそれにまつわるエピソードが書かれています。

愛と共に多くの夢を持つこと、たとえそれがかなわなくても、くじけずに前進しようというメッセージを頂きました。

—— 朝倉 倭文子 (昭和40年上智大学文学部ドイツ文学科卒)

これまでに開催されたセミナー

● 2003年9月24日(水)

松本 基子氏

(皇學館大學社会福祉学部教授、元大和定住促進センター所長)

『誰が担う私の介護』

「誰が担う私の介護」を主題に開催された2003年9月24日(水)のSELDAАセミナーでは、インドシナ難民等外国人支援の実践・学究に明るい講師の松本基子氏より、今後の少子・高齢化社会で外国人が介護労働に従事することを想定し、「介護される側として、それを受入れるか」と発題がありました。

「日本人であるか否かより、介護はお互いの信頼関係が大切」「外国の優秀な人材を日本に引き抜いてよいのか」「労働者の家族の教育等含めて受入を考える必要がある」等、参加の方々の活発な議論を通し、受入の際には多様な課題があると感じました。

—— 坂間 治子 (明治学院大学大学院博士課程前期1年)

SELDAА セミナー 今後の予定

■ 2003年10月22日(水)

Mrs. Dalit Bloch-Tzemach (留学生 (イスラエル))

『Young Israelis in Japan: Inter-Cultural Encounter』

■ 2003年11月26日(水)

國弘正雄氏

(元英語学科非常勤講師、英国エジンバラ大学特任客員教授、月刊『軍縮問題資料』誌編集人)

『近頃思う事』

■ 2003年12月10日(水)

東郷公德氏 (英語学科助教授、昭和62年英語学科卒)

『“リヤ王”：すべてを失った時、残るものは?』

■ 2004年1月28日(水)

木村和美氏 (東京外国語大学講師、昭和49年英語学科卒)

『英語の発想で書くライティング』

■ 2004年2月25日(水)

作間和子氏 (東京女子大学文理学部英米文学科専任講師、昭和61年英語学科卒)

『アメリカ女性作家が描く結婚と女性 —— Louisa May Alcott, C.P. Gilman, Edith Wharton など』

■ 2004年3月10日(水)

岡田仁孝氏 (上智大学比較文化研究所長)

『NGOとベンチャー企業と市場メカニズム』

場所： ソフィアーズ・クラブ

時間： 10:30～12:00

会費： 3,000円/年 (英語学科卒業生)

5,000円/年 (英語学科以外)

500円/1回

*事前の予約は不要です。当日直接会場にお越しください。

世話人： 熊野 順子 (昭和46年卒)

森本 佳子 (昭和46年卒)

落合 彰子 (会計) (昭和46年卒)

※来年度以降のSELDAАセミナーの予定については、現在、常任委員会と活性化委員会で検討中です。

《お詫びと訂正》

前号 (No.36) で紹介いたしました、蟹瀬誠一氏のセミナーについて、タイトルおよびその内容が受講者の報告通りになっていませんでした。関係者の方々にご迷惑をお掛けしましたこと、お詫びいたします。

ここに全文を再掲いたします。本当に申し訳ありませんでした。

2002年10月23日(水)

蟹瀬 誠一氏 (ジャーナリスト)

『Read Between the Lies - News thru the TV Lens』

私たちは新聞、テレビなどのメディアを通していろいろなニュースを知り、その情報に基づいて、またいろいろな世論を形成する。テレビによる報道程、私たちの世界観に影響するものはない。しかし、残念なことにそれはともすれば部分的で、放送局によって選択された素材で、いわば少し色づけされた社会を写す鏡である。そして一般大衆はその電気式メディアを媒介として世界を覗いている。特に、その外信ニュースについては西欧諸国のメディアと比べると、編集のやり方に工夫が必要である。例えば、視聴者の基本的な疑問を説明することなど——例えば何故、それが起こっているのかとか、そのニュースの背景などについて。つまり、日本のメディアの報道は時々、情報を歪曲している。そして、それは特に外信の報道について、世界を二つの単純なカテゴリーに分けたがる傾向がある。つまり、敵か味方か、右か左か、お金持ちか貧乏かというように。現実には世界は文化や伝統などの点からして、もっと多様性がある。

従って、日本のテレビによる外信報道はもう少しバランスのとれた正確な報道をすることを心掛けるべきだ。それは、ジャーナリズムとは世界の現実を説明する努力であり、一方、一般大衆はどちらかという平凡な事に興味を持つが、ジャーナリズムは社会正義や、倫理的な高潔さなどの道しるべとして機能するように努めるべきである。——など、蟹瀬氏の日本のメディアについてのコメントでした。

(昭和53年卒 佐藤 誠一郎)

卒業生短信

9月上旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)
また、皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

■35年間勤めた共同通信を2000年10月に定年。2001年12月に脳梗塞で倒れましたが、リハビリで再生。スコアは悪いが、ゴルフができるくらい元気を取り戻しています。料理を趣味に加えしました。サラリーマン卒業後、そして再生後、コミュニティ・カレッジに通い、「英語のたどった道」、「Second Language Acquisition I & II」、「米国大衆音楽の変遷」などを取り、ただいま「英文翻訳演習」を学んでいます。

清水 俊二 (昭和39年卒)

■5月20日に講談社+α新書として、『誰も知らなかった賢い国カナダ』という本を出しました！ 日本ではあまり知られていない現代カナダの地域研究テキストで、カナダの政治、経済、文化、社会、国際関係を、自分の体験も含めて、わかりやすく説明したつもりです。上智の英語学科や学部時代に留学したシアトル大学も「ネタ」に使用させて頂きました。お読みになられた方、ご感想などをお寄せください！

(電子メール: sakurada@kwansei.ac.jp)

櫻田 大造 (昭和59年卒)

■米国のニューヨーク州立大学ビンガムトン校で日本語と言語学のアシスタントプロフェッサーをしています。日本語教育に携わって十数年、最近の課題は日本語言語学の研究と日本語・日本文化の教育とをどう関連づけられるか、という点です。昭和52年卒の皆様、そして日本やアメリカで日本(語)を教えていらっしゃる方、ご連絡いただければ嬉しいです。

(rsode@binghamton.edu)

早出(そうで) るみ子 (昭和52年卒)

■昨年9月末に三菱ガス化学(株)を定年退職し、関連会社の大阪内外液輸(株)という化学製品(液体)の運送会社の代表者として勤務しております。現代の不況の波をモロに受けており、会社再建に日夜取り組んでおります。

岡 賢一 (昭和41年卒)

■学生時代のことを思うと、ほんとうに懐かしい気持ちになる歳になりました。先生、学友の皆様、お元気でいらっしゃいますか。

私は、卒業後26年の高校教員を経て、何と現在は九州の山の中、大きな茅葺き屋根の下で田舎暮らしに奮闘中です。

あふれるすばらしい自然、有機無農薬のほんとうにおい

しい野菜、果物たち、そして今は「農家の宿」も始めて、多くの人達との交流も楽しんでいます。

収入は東京時代の10分の1以下ですが、毎日がゆったり、のんびりマイペースで、まさにもう天国！に暮らしているようです。お金のあった東京の頃に、果たしてこんなに生活も心も豊かだったろうかと思いつくづき思っています。

スローフード、スローライフ、やれば実現できるものですね。毎日に乾杯!! です。皆様もどうぞお元気で、すてきな日々を。

平山(橋本) 幸子 (昭和50年卒)

■17年間のニューヨーク生活から戻り早6年。一緒に戻ったはずの5人の子供達のうち、3人は再び外国へ飛んでいき、残る2人も巣立ちを今か、今かと待機中。あと数年たてば夫婦2人の生活かとゾッとしていたところへ、フィラデルフィアからやってきた上智の留学生ローラ、一週間後には韓国からミンジュ、おまけに仕事のあい間に日本語でも教えようかと出してみたハリ紙につられてやってきたロシア人イブ、チリ人パオラ、バングラデッシュ人トニー、タイ人アイリーン、ドイツ人ウリーなどなど、あつという間に上智キャンパスさながらの International house が出来上がった。考えてみるとアメリカ時代にどれほどの人間の世話になったか、今度は私ができるお返しを、国は違えど、日本にそれぞれの目的を持ってやってきた若者にできたらいいと考えている。

黒部(久保) 美子 (昭和52年卒)

■96年卒の廣田展子と申します。学生時代には、デニー先生、村井先生、吉田先生、いろいろな先生にお世話になりました(デニー先生にはお昼ご飯を恵んでいただいたりしていました)。

2月に結婚し、浦山展子になりました。

職場ですが、母校である金光学園中、高等学校(岡山県)で教諭として英語を教えております。

私は卒業後職に就かず、非現実的なことをしており、もんもんとしながら実家に帰り、父親がすぐ倒れ、そのまま実家の塾の手伝いをしながらも、常に現実逃避をしておりました(抽象的ですがみません)。不相応にも医者を目指し、そこで今の主人と出会いました。主人の方は合格し、私は母校から声をかけていただき教職に就きました。現在主人は宮崎で学生、私は親元の広島県と離れ離れですが、楽しくやっています。主人の

お陰で九州を旅する機会が増え、九州ファンになりました。GWには嬉野温泉と有田陶器市に行ってきました。広島、岡山にお立ちよりの際は、お声をかけて下さい(尾道は自信スポットです)。また、九州おすすめスポットがあればぜひ教えてくださいませ。

メール：hironobu333@mx4.tiki.ne.jp

浦山(廣田)展子(平成8年卒)

■昨年4月にフリーランスとなり、NHKでニュースライターとして仕事をしています。ニュースライターといっても聞き慣れない方が多いことと思いますが、日本語のニュース原稿をもとに、国際放送、音声多重放送用の英語の原稿を作成する仕事です。これまで慣れ親しんできた翻訳とは違った難しさがあり、原稿と格闘する毎日です。

一日も早く先輩の皆さんに近付けるよう頑張りたいと思います。

小林慶子(平成2年卒)

■AIU保険会社の仕事でサンフランシスコに長年滞在していましたが、AIUを数年前に退社し、現在はカリフォルニア州弁護士資格を取って、Foley & Lardnerという法律事務所です。小さいながらも東京にオフィスを設けることになりましたので、日本に行く(帰る?)機会も増えるのではないかと期待しています。サンフランシスコへお越しの際は是非お声をかけて下さい。(tkawaguchi@foleylaw.com)

川口敏明(昭和61年卒)

2003年度定例総会報告

2003年度SELDAA定例総会が、今年もオール・ソフィアンズ・デーにあわせて5月25日(日)正午より、上智大学1号館202室において開催されました。冒頭、議長に安西徳子常任委員(昭和49年卒)、書記に増田光常任委員(昭和59年卒)を選出しました。

【会長挨拶】

石川雅弥会長(昭和40年卒)から、以下の点について説明がありました。

- ・英語学科の現状を説明。特に2003年度新入生について、圧倒的に女子学生が多く、英語学科設立当初に比べると隔世の感である。
- ・例年総会への出席者が少ないという状況の中で、いかに同窓会を活性化していくかが重要なテーマとなっている。また、来年はSELDAAが設立20周年を迎えることから、20周年記念の準備作業と並行して、同窓会の活性化を図っていきたい。
- ・ニッセル先生を囲む会を2003年6月6日に企画しているが、まだ出席者が少ないので、ここにいる方々からも積極的に情宣をお願いしたい。

【前年度の活動報告】

(1)大日方聖信副会長(昭和62年卒)より、前年度の全般的な活動報告について。

(2)佐藤誠一郎常任委員(昭和53年卒)より、会報編集について。会報No.34およびNo.35を発行。これまでは毎号8ページとしていたが、No.35は会員の協力が得られ原稿の量が多かったため、12ページとした。今後はページ数を特に決めることなく、さまざまな情報を載せることとしたい。また、会報に要する費用が年々多くなっているため、無駄な経費を減らすような努力も求められる。

(3)SELDAAセミナー世話人の熊野順子・森本佳子両氏(昭和46年卒)より、SELDAAセミナーについて。

2002年度から講師料を、上智内部 ¥20,000、上智外 ¥25,000 から、上智内部 ¥25,000、上智外 ¥30,000 にそれぞれ変更した。

毎回の受講者数が減少しているが、ニッセル先生や吉田研作先生の回は非常に好評である。

今後は、Web上でのセミナーの内容紹介や講義録の作成が課題と考えている。

(4)大日方副会長から、2002年度決算報告について。(2002年度決算書)

2002年度は、収入に比べ、支出の方が多く、単年度では赤字とな

っているが、繰越金が多いため、財政難に陥ることはない。1994年から終身会員制を導入したが、1995年以降会費収入は減少傾向にある。決算報告書について説明の後、2002年度決算は承認されました。

【2003年度予算案】

石川会長から、2003年度予算案に、新たに「20周年記念準備費」を計上し、SELDAA創立20周年の準備にとりかかりたい、との説明があった。

審議の結果、2002年度予算案は満場一致で承認されました。(2003年度予算書)

【その他】

石川会長から、同窓会の活性化について、今後会員諸氏にご協力願いたいとの要望が出された。

【懇親会】

総会終了後、懇親会が行われました。25名ほどが参加し、母校の懐かしい教室で和やかなひと時を楽しみました。

また、ニッセル先生が突然会場にお越しになり、同窓生との語らいを楽しんでおられました。

以上

2002年度 上智大学英語科同窓会収支決算書

自 2002年4月1日 至 2003年3月31日

収入額	22,490,310円
支出額	3,592,175円
次年度繰越金	18,898,135円

(単位：円)

	科目	予算	決算	備考
収入	1繰越金	18,936,866	18,936,866	
	2会費	2,000,000	3,553,000	
	3受取利息	2,000	424	銀行預金、郵便局貯金
	合計	20,938,866	22,490,310	
支出	1名簿作成積立金	600,000	600,000	
	2会報費	3,000,000	2,360,699	会報No.34, No.35 編集・印刷1,203,224(税込み) 郵送料1,045,370 発送作業代112,105
	3SELDAAセミナー	400,000	400,000	
	4交流促進費	200,000	25,200	
	5総会費	100,000	63,030	資料作成費・懇親会
	6会議費	150,000	59,440	常任委員会運営費
	7事務処理費	300,000	83,806	文書代・通信費・振込手数料・消耗品費等
	8予備費	16,188,886	0	
合計	20,938,866	3,592,175		
			18,898,135	2003年度に繰越

2003年度繰越金内訳

郵便局普通貯金	6,480,250円
郵便局普通貯金(会費入金口座)	2,983,000円
東京三菱銀行普通預金	9,433,993円
現金	892円
	18,898,135円

上記の通り、相違ないことを認める

2003年5月25日

会計監査 井坂由美子(昭和47年卒)
岩村玲子(昭和49年卒)

	科目	予算	備考
収入	1繰越金	18,898,135	2002年度より繰越
	2会費	2,000,000	入会金を含む
	3受取利息	400	銀行普通預金・郵便貯金
	4活性化事業収入	400,000	同窓会活性化事業
	合計	21,298,535	
支出	1名簿作成積立金	600,000	2003年度(2004年3月)発行予定
	2会報費	3,000,000	会報36・37号分
	3SELDAAセミナー	400,000	講師への謝礼・交通費、会議室利用料
	4交流促進費	200,000	会員間交通事業等
	5総会費	100,000	資料作成費・懇親会
	6会議費	150,000	常任委員会等
	7事務処理費	300,000	文書代・通信費・振込手数料・消耗品等
	8二十周年記念準備費	500,000	同窓会設立二十周年記念の準備活動
	9予備費	16,048,535	
	合計	21,298,535	

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りの訂正や、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までご連絡ください(英語学科同窓会事務局にお知らせいただいた場合、ソフィア会事務局にも通知しております)。住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。また、最近では市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

2004年3月に同窓会名簿を発行予定です。一人でも多くの方の最新の住所等を掲載したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。なお、同窓会名簿は、終身会員及び今年度(2003年度)の会費を納入されている方のみに発送いたします。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局

FAX.03-3238-3910 E-mail:seldaa@mve.biglobe.ne.jp

(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

■あなたの会費納入状況

封筒の宛名ラベルの右上に「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

なお、終身会員を表わす「S」のスタンプは廃止しました。

(第1ページ参照)。

6,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

SELDAA 常任委員 (2003年4月現在)

■名誉会長 / Michael Milward (英語学科長)

■会長 / 石川雅弥 (昭和40年卒)

■副会長・事務局長 / 池沢成実 (昭和48年卒)

■副会長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)

■会計 / 内藤恭子 (昭和55年卒)

寺北ゆかり (昭和61年卒)

■会報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)

■SELDAAセミナー / 安西徳子 (昭和49年卒)

■常任委員 / 蔵田 實 (昭和48年卒)

増田 光 (昭和59年卒)

東郷公德 (昭和62年卒)

■監査 / 井坂由美子 (昭和47年卒)

岩村玲子 (昭和49年卒)